

# 第2回検討会議の振り返り

---

# ミュージアム民活検討会議と運営検討部会の進め方

- 3館の検討部会でミッションや民活導入手法を検討し、有識者による検討会議で多角的に検証
- 各検討部会で民活導入手法案を決定し、検討会議の検証を経て、市として最終的に意思決定

## 民活検討会議（文化企画課）

## 運営検討部会（3館）

### 会議の種別

### 市政運営上の会合（公開）

### その他の会合（非公開）

済

#### ②第1回 8月26日

- ・市政変革の経緯を説明（文企）
- ・部会の検討状況を報告（各館）
  - － 館のミッション など

済

#### ①第1回（準備会） 7月～8月

- ・市政変革の経緯や館の現状等を報告
- ・館のミッションを議論、再確認

済

#### ③第2回 8月～10月

- ・民活導入の考え方や選択肢を説明
- ・民活導入手法を議論（他都市比較等）

済

#### ④第3回 10～11月

- ・変革検討会議での意見や他都市事例等を踏まえ、民活導入手法案を議論

済

#### ⑥第4回 12月～1月

- ・検討部会としての民活導入手法案を決定
- ・具体的施策や民間等に期待するものを検討

### 議論のイメージ

済

#### ⑤第2回 11月27日

- ・第1回会議の振り返り等（文企）
- ・部会の検討状況を報告（各館）
  - － 民活導入の検討状況 など

今回

#### ⑦第3回 3月5日

- ・各館の検討概要を説明（文企）
- ・部会の検討状況を報告（各館）
  - － 民活導入手法案 など

# 第2回ミュージアム民活検討会議の主な意見

- 各館の立地や論点など、実態に即した時間軸で民間活力の導入の検討が必要
- 官民の役割分担を整理した上で、館の機能別に、最適な民間活力導入方法の検討が有効

## 全体意見

- ① 全てのミュージアムが目指す姿「もっと感動ミュージアム」は今後の方向性が分かりやすい整理
- ② 学芸員の調査研究により、未来へ文化芸術を伝えるだけでなく、新しいものを創造する視点も重要
- ③ 目標となる来館者数などのゴールを設定し、民間に委ねる機能をモニタリングする仕組みが必要
- ④ 民間活力の導入により、学芸員や専門職員が本来果たすべき業務に注力できる体制の構築が必要
- ⑤ 館によって立地や論点が異なるため、個別の実態に即した時間軸で民間活力導入の検討が必要

## 科学館

- ① 学校と連携した社会教育ニーズへの対応は、後の集客につながるため、引き続き強化が必要
- ② 館の展示やコンテンツはそのままでも、民間の力を活用することで、更なる広がりが期待可能
- ③ 学芸機能は行政が担保しつつ、館の機能別に、より最適な民間活力導入の検討が有効

## 個別意見

### 漫画M

- ① 官民の協働事業という指定管理の基本に即して、役割分担や契約内容を具体的な検討が必要
- ② 業務分担方式の場合、責任の明確化は必須であるが、越境による一体的運営の好循環も必要
- ③ 指定期間は長期間かつ募集方法は非公募を検討しているが、採用理由は更なる整理が必要

### 美術館

- ① 館の立地や公園の活用を踏まえると、全体的な民間活力導入については、科学館や漫画Mと比較して中長期的な検討が必要
- ② 民間の強みである広報やショップなどについては、短期的な民間活力の導入検討が必要
- ③ 館や学芸員の役割を踏まえ、どこに民間活力を導入するか、短期と中長期に分けた検討が必要

# 北九州市のミュージアムが目指す姿

- 北九州市の文化振興施策の基本理念「まちに彩りを。心に豊かさを。多様な人を惹きつける文化共創都市」の実現を目指し、**ミュージアムの目指す姿や果たすべき役割等を整理**

目指す姿

## もっと感動ミュージアム

感動を生み出すため、ミュージアムの「空間・仕組み・サービス」をユーザー目線でもっと豊かに

主な役割

1

社会教育機能

### 市民の豊かな感性を育む

ミュージアムのリソースを活用し、市民や来館者の知的好奇心を刺激するとともに、新たな学びや気づきを生み出す源泉として貢献する。



- ①科学の楽しさを実体験できるサイエンスショー等の実施 (R6:20, 432名)
- ②漫画体験や漫画スクールなど、体験型ワークショップの開催 (R6:計62回 2,253名)
- ③小学生がオンラインで美術館や作品を鑑賞するミュージアムツアーの実施 (R6:20校1,144名)

2

文化観光機能

### まちに彩りと賑わいを創る

ミュージアムのリソースを活用し、優れた文化芸術に触れる機会を創出するとともに、市内外から多様な人を惹きつけ、文化観光を推進する。



- ①集客力の高い企画展（横山大観展等）や魅力的な空間を活かしたイブニングコンサート等の開催 (R6:104, 306名)
- ②コンサートとの連携など、非日常感のあるプラネタリウムの開催 (R6:129, 110名)
- ③夜間の魅力的なコンテンツ、ナイトミュージアムの開催 (R6:6回3,708名)

3

調査研究機能

### 地域の文化を未来に伝える

文化芸術に関する資料を収集・保存し、調査研究の成果を還元することで、次世代の郷土愛を育み、地域の文化芸術を未来に引き継ぐ。



- ①博物館の学芸員による調査研究に基づくオリジナル特別展の開催と他都市への巡回（世界の野生ネコ科展3都市巡回）
- ②地元作家の調査に基づくコレクション展・企画展の開催 (R4平野遼展、R5松野一夫展)
- ③松本零士展など地元ゆかり作家の大型展覧会の開催 (R7.9.27~R8.1.12)

取組事例

# 目指す姿の実現に向けた主な課題意識と打ち手の仮説

- 民活検討会議等の意見を踏まえて、目指す姿の実現に向けた**課題意識**や**打ち手の仮説**等を整理
- 目指す姿の実現に向けては、**民間ノウハウの活用**や**学芸機能の安定的な確保**が必要

主な役割



主な課題意識

- ① 事務職員は定期的な人事異動があるため、広報等の企画運営ノウハウ蓄積が不十分。
- ② 多様なミュージアムや周辺施設等と連携した、周遊効果の高い取組が必要。
- ③ 次の世代に引き継いでいくために、若い世代の興味関心を踏まえた企画運営が必要。

- ①ミュージアムが持つコンテンツや学芸員が企画する特別展等を、魅力的かつ分かりやすく伝えるノウハウが必要。
- ②繁閑に合わせた、展示の魅力を伝える解説員の柔軟な人員配置が困難。

- ①安定した来館者数を維持する館がある一方で、来館者の減少傾向が続く館がある。
- ②民間との親和性が高く、そのノウハウを活用することで、来館者の増加が期待できる館がある。

- ①ミュージアムの専門性に対応する、優れた学芸員の安定的な確保が必要。
- ②国内外の関係者と信頼関係を有する学芸員による、中長期的な調査研究や企画への還元が必要。



**前回意見を踏まえて追加** ↘

打ち手の仮説

- ① 広報や施設管理などを民間に委ねることで、集客等のノウハウを維持できるのではないか？また、運営状況の継続的なモニタリングや改善の仕組みが必要ではないか？
- ② 民間ノウハウの活用にあたっては、民間人材の登用や指定管理者制度など、多様な手法を調査し、館の立地や背景を踏まえた時間軸で民活導入を検討すべきではないか？
- ③ ミュージアムの魅力を支える学芸機能は行政が担うことで、安定して地域の文化芸術を継承するとともに、**新たな価値を創造**できるのではないか？